

令和8年9月2日

京都府中丹東農業改良普及センター

京都府中丹西農業改良普及センター

台風・大雨による浸水・冠水対策情報

本年は8月に10個の台風が発生し、9月1日にも台風24号が発生するなど、台風が多い年となっています。また、日本各地で前線等による大雨被害が生じています。今後、秋に向かう中で、台風の接近や天気の崩れなどによる大風や大雨に注意する必要があります。以下の事項を参考に十分な大雨対策を講じてください。

1 水 稲

(1) 大雨前・台風通過前

- ① 既に刈取適期になっているものは、速やかに収穫する。
- ② 大雨等で滞水しないように排水溝等の点検を行う。

(2) 大雨後・台風通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ② 成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く収穫し、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ、京の輝き、祝2号などの穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。
- ③ 収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

2 豆 類（「紫ずきん」・「京 夏ずきん」を含む）

(1) 大雨前・台風通過前

- ① 豆類は湿害に弱いため、必ず排水路や排水口等の点検を行い滞水させないようにする。
- ② 大豆については、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2) 大雨後・台風通過後

- ① 水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除くとともに、うね間に滞水しないよう排水を促し、ほ場の乾燥に努める。
- ② 浸冠水すると病害虫が発生しやすくなるので、直ちに予防防除を行う。茎葉に付着した泥を落とすように防除する。
- ③ 土壌が乾いた後、畝間を浅く耕し、通気性を確保する。
- ④ 雑草が多発する場合があるので、雑草の発生状況を確認し、必要に応じて除草剤の散布を行う。

3 野菜、花き

冠水したほ場では、土壌中の酸素が欠乏するため、根の呼吸が阻害され、根腐れ、茎葉の萎凋など、さまざまな症状が発生します。以下の点に注意し、速やかに必要な対策を行ってください。

- ① マルチ栽培では、マルチをめくり土壌表面の乾燥を促す。
- ② 退水後は直ちにほ場を清掃し、土が乾いた後、根を傷めないように浅く耕し通気性を確保する。また、排水溝を深めに整備し排水に努める。
- ③ 茎葉に泥の付着が多い場合、清浄な水や殺菌剤の散布により速やかに洗い流し、光合成の低下や病害の発生を防ぐ。
- ④ 冠水によって土壌中の窒素や加里が流亡し、葉色が薄くなり生育が緩慢になることが心配される。「根腐れ」や「しおれ」がないことを確認した後、追肥として窒素と加里を含む速効性の肥料を施用して、樹勢の回復を図る。施用方法は、1アール当たり窒素成分で0.1～0.2 kgを5日間隔で2～3回程度、土壌表面または通路に施用する。
- ⑤ 果菜類では、樹勢の低下が見られる場合は、摘果と若穫りにより着果負担を軽減し、樹勢の回復を図る。また、トマトやトウガラシ類では、カルシウム欠乏による尻腐れ果の発生が心配されるため、カルシウム剤の葉面散布を5日間隔で2～3回程度行う。
- ⑥ 風雨による茎葉の傷からバクテリアや糸状菌が侵入し、病害が発生する恐れがあるので、殺菌剤の予防散布を行うとともに、こまめに観察し、発生初期から防除を行う。特に、疫病、軟腐病などの土壌病害の発生が多いので注意する。
- ⑦ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。
- ⑧ ハウス栽培で冠水した場合には、速やかに排水に努めるとともに、強光でハウス内が高温になる場合は、遮光により昇温を抑制し、草勢の回復を図る。

4 果 樹

- ① 浸水したほ場は、速やかな排水に努める。
- ② ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、適用のある農薬を確認して殺菌剤を散布する。

5 茶

- ① 浸水した茶園は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ② 激しい降雨で株元が不安定になった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③ 病害が発生しやすいので、適用のある農薬を確認し、治療効果のある薬剤による防除を徹底する。